残業漬け 私はごめんだ

男が女が生きる

長時間労働の呪縛

長時間労働を嫌って大企業を辞めた男性が綴るブログがある。

脱社畜――。会社との距離をどうとるべきかをブログーの日野瑛太郎さん(30)がそんな題名で書くサイトに月10万人が訪れる。

日野さんは「『長時間労働はいいこと』という意識が最も嫌でした」と振り返る。東大大学院在学中にITベンチャーを立ち上げたが2年ほどで経営が行き詰まり、東証1部上場の大手ソフト会社に就職。そこで見たのは、長時間労働を前提にした企業文化だった。

「今月の残業、100時間超え」と自慢げに話す同僚や、有給休暇を申し出ると嫌な顔をする上司……。早めに仕事を片付けても追加の業務をどんどん振られ、残業時間が月50時間、70時間と延びていった。

「仕事のために生きているんじゃなくて、生きるために仕事をしている」「サービス残業は犯罪行為だ。他人の時間という資産を盗んでおいて、金を払わないのは窃盗と変わらない」

日々の思いをブログに書き始めると、「漠然と感じていたことを言語化してくれた」と予想以上の反響が集まり、本を出版するほどになった。一方で、ブログには「仕事にやりがいを感じて長時間労働をしている人もいる」という批判もある。

2年前、約2年間勤めたその会社を辞めた日野さんは「やりがいを持って仕事に打ち込んでいる人を批判するつもりはない。多くの人は会社と自分の距離をうまく取れない『社畜』にはなりたくないと思っているけれど、どうしていいか分からないのではないか」と話す。

日野さんが疑問を感じた「月50時間」の残業は、毎日2～3時間程度残業することを意味し、多くの日本企業で日常的に見られる長さだ。ふつうの企業に広がる長時間労働が男性や女性に何をもたらしているのか、考えたい。（津阪直樹）

2面に続く

育児と両立 妻に偏る負担

1面から続く

仕事に就きたいと思っても、長時間労働が壁となって立ちはだかる場合もある。

2歳半の娘がいる都内の女性(22)は、長時間の勤務がネックになり、2度退職に追い込まれた。女性はいま、「子どもがいて働くなんて本当に無理なんだってわかった」と嘆く。

出産前はアパレル業界で働いていた。閉店は午後10時。朝から立ち通しで働き、後片付けをして帰宅するといつも深夜。妊娠したら辞めるのが暗黙の了解になっていることを悟り、「ここでは産めない」と出産前に退職した。

出産したあと、託児所付きのエステサロンを見つけ、子どもがいることも、残業はできないことも伝えたうえで入社した。

ところが午後5時に職場を出る女性に、上司や同僚は「なんであなただけ早く帰るの」「夜まで働けないの」と容赦ない言葉を浴びせた。

夫も長時間労働の職場で、育児や家事の分担はできなかった。エステサロンで残業を迫られる心労と育児の負担などで、数カ月で体調をくずし、退職に追い込まれた。

日本では、約6割の女性が第1子出産を機に退職している。労働政策研究・研修機構(JILPT)の内藤忍・副主任研究員は「日本の長時間労働は、女性にとって仕事と家庭を両立していくなかで一番大きなハードルになっている。日本では、男は仕事、女性は家庭といった『性別役割分業』の意識が他の主要国以上に強いことも女性にとってはハードルだ」とみる。

欧州では、子育て期には共働きの夫婦が共に働く時間を減らすケースも多くみられる。昨夏、ドイツの中小企業などを視察した連合の安永貴夫副事務局長は、「ドイツでは平日でも夕飯を家で食べるのは当たり前。長い労働時間が経済力につながるというのは幻想だ」と感じたという。

「性別役割分業」の意識が強い日本では、夫が長時間働き、妻が育児や家事を担当する形になりがちだ。

「うちは母子家庭だと思っています」

今年1月、東京・銀座の銀座三越。育児中の親を支援する催しで、参加していた女性が、こう話した。

主催は、東京都などでつくる「子育て応援とうきょう会議」だ。参加した20～40歳代の女性約20人は、子育てを一人で抱え込まざるを得ないことへの不安を口々に語った。ある女性は「平日は、夫に全く手伝ってもらえない」と話した。

イベントを運営したNPO「仕事と子育てカウンセリングセンター」の伊藤由貴事務局長は「育児で母親が孤立し、『孤育て』になっている家庭が多い」と危惧する。

(岡林佐和、鈴木友里子)

定年の夫 忍び寄る孤立化

長時間労働の人生の先には何が待っているのか。

「仕事一筋、長時間労働だった男性が定年後にやりがいを喪失して、うつになったり、自殺したりしている」。大阪樟蔭女子大教授で、男性の更年期外来が専門の医師、石蔵文信さん(59)はこう話す。

「長時間労働を続けてきた男性には、会社でのつながりである『社縁』しかなく、近所で友人を作ることも趣味を持つことも難しい。退職して『社縁』が切れたとたん、社会から孤立する」。結果、妻に一日中まとわりつく。めまいや頭痛を訴える女性が増えているという。石蔵さんはそれを「夫源病」と呼ぶ。

せめて昼ご飯だけでも作れたら、妻の負担が減るのではないか。石蔵さんは数年前から大阪府の吹田市や枚方市などで中高年の男性向けの料理教室を始めた。

「料理ぐらいできるようになって」と妻が申し込んだ人、「自分でやらないといけないと思った」と決意して参加した人。みな黙々と料理を学んでいる。

始めた当初は定員に満たなかった料理教室はいま、申し込み開始から30分ほどで定員オーバーになるほど中高年男性からの申し込みが増えている。

(風間直樹)

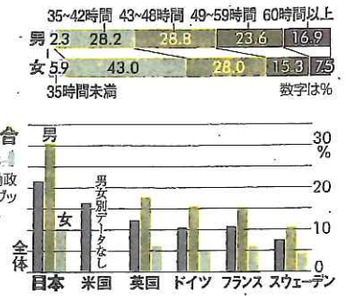
「女が生きる　男が生きる」ではこれまで私たちの間の隠れた意識、貧困問題などを取り上げてきました。今回は長時間労働が私たちの社会にどんな影響を与えているのか2回にわたって考えます。次回は、長時間労働への学生の意識変化、企業の新たな取り組みを取り上げます。

◆この企画への感想、ご意見をikiru@asahi.comまでメールでお寄せ下さい。

男が女が生きる　長時間労働の呪縛

正規職員・従業員の週間就業時間別構成割合

総務省統計局「就業構造基本調査」(2012年)から。総数に労働時間不詳を含むため合計が100にならない



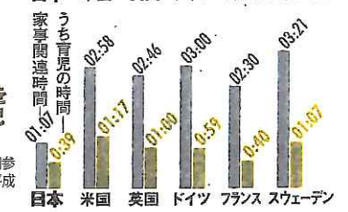
長時間労働者の割合

長時間=週49時間以上

雇用者、2013年現在。労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2015」から

6歳未満の子どもを持つ夫の家事・育児関連時間

1日あたり。内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成27年版」から



子育てをしている親の支援を目的にしたイベント＝東京都中央区の銀座三越(参加している方の顔にぼかしを入れてあります)

仕事人間世代「残業 成長のため」

弘兼憲史さん

長時間労働に理解を示す意見もある。

「『何時間でも働く』というAさんと、『会議があったとしても、子どもの誕生日には早く帰りたい』というBさん。2人の能力は同じ。私が上司なら、Aさんに責任ある仕事を任せるのは当然だ」

仕事人間の主人公が出世していく人気漫画「課長島耕作」を描いた弘兼憲史さん(68)はこう語る。

弘兼さんは大学卒業後に松下電器産業(現パナソニック)に入社した。高度成長期、職場は活気に満ち、残業は当たり前だった。「仕事が面白く、長時間労働も全く嫌ではなかった。自分の成長のために必要なことと思っていた」と振り返る。

「共働きなら育児や家事は分担すべきだし、(男性が育児に積極的に関わる)イクメンを否定する気はない」としながらも、「残業をいとわず、仕事を一生懸命やる人も必要ではないか」とも話す。

大手食品会社に勤めていた愛知県の男性(72)も仕事に捧げてきた人生に誇りを持っている。週休1日だった時代。部下の報告書の処理や仕事の準備で、唯一の休みである日曜も会社に行き、残業もいとわなかった。

転勤続きで子どもは小学校を4回かわったが、「家族は常に一緒に生活すべきだ」という考えから単身赴任はしなかった。専業主婦だった妻は仕事の忙しさを理解し、支えてくれたという。「遮二無二働くしかなかった時代で、家庭を無視するしかなかった。妻のお陰で子どももちゃんと育ってくれて後悔はない」と話す。

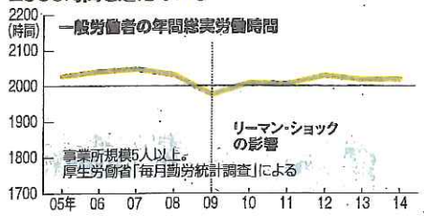
(雲版直樹)

いちからわかる！

日本人って働き過ぎてるの？

昨年は2020時間。主要国で最長クラスの労働時間だ

日本の労働者には実質的に総労働時間規制がない



日本の一般労働者の年間労働時間は2000時間を超えている

アウルさん　日本人は働き過ぎなの？

A　パートタイムで働いている人以外の労働者は2014年、1年で2020時間働いていた。主要国では最長の水準だよ。長時間労働者の割合(13年)は主要7カ国(G7)では、最も高い。

ア　規制はないの？

A　労働基準法は1日8時間、週40時間を超えて労働者を働かせてはいけないと決めている。ただ、例外として、雇う側と働く側の間で約束すれば8時間を超えて働かせることができることになっていて、実質的に制限がないんだ。周りが仕事をしていると帰りにくいといった雰囲気、残業していると上司に評価されるといった考えも背景にあると言われているよ。

ア　昔から日本人はこんなに働いていたの？

A　「仕事と日本人」という本を書いた東京大学の武田晴人名誉教授(日本経済史)によると、長時間労働文化が始まったのは明治時代から。江戸時代後期の農民は、家族が生きるために最低限必要な程度に仕事を抑え、生産性が上がればお休みを増やしていたんだって。20～30日だった年間の休日を80日まで増やした地域もあったというよ。

ア　何で変わったの？

A　明治時代以降の近代化で、工場を経営する資本家が力を持ち始めた。「労働者は資本家にとって『モノ』になり、出来るだけ安く、長時間働かされるようになっていった」(武田氏)というわけだよ。

ア　近代化したのはほかの国も同じじゃないの？

A　そうだね。でも、ヨーロッパでは第2次大戦後、労働者を守る制度の整備が進んだ。欧州連合(EU)には今、週48時間を上限とする総労働時間規制がある。一方、日本はいまでも規制が緩いまま。生活給を得るために残業している人もいるといわれているよ。

(雲版直樹)

2015・10・12

■質問のテーマを募っています。あて先は　wakaru@asahi.com